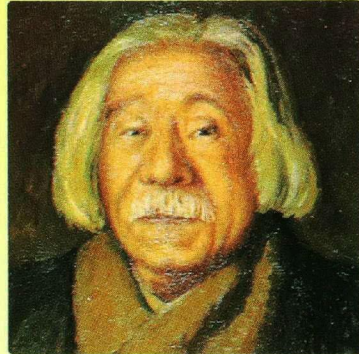


徳富蘇峰(本名・猪一郎)氏

(昭和30年1月1日表彰)

近世日本の先覚者。また、世界に稀な優れた思想家であった。熊本在住中は、白川新聞、熊本新聞等を発刊。大江義塾の創始者として子弟の教育に専念し、その啓蒙的影響が大であった。文久3年1月25日生れ、昭和32年11月2日死去、94歳。



高橋守雄氏

(昭和30年1月1日表彰)

第7代熊本市長として、歩兵23連隊の移転・市電・上水道の開設の三大事業を完遂。市の近代化、発展繁栄に尽した。また、教育者として熊本商大、短大学長を歴任、郷土教育の振興育成に努力した。明治16年1月1日生れ、昭和32年5月3日死去、73歳。



細川護立氏

(昭和35年4月1日表彰)

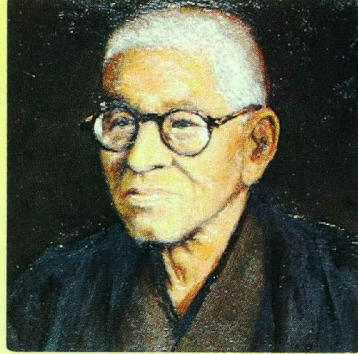
肥後旧藩主細川家16代。有斐学舎舎長、肥後奨学会設立、多額の奨学金を出資して本県出身学徒の育成援護に尽した。国の文化財保護委員会委員として、本市の重要文化財、史跡、名勝等の保存活用に貢献。明治16年10月21日生れ、昭和45年11月18日死去、87歳。



福田令寿氏

(昭和35年4月1日表彰)

医師開業のかたわら、医専五高等で教鞭をとり子女の教育に専念の外、社会文化、社会福祉の要職を歴任、郷土の文化・福祉の向上発展に尽した。清廉・潔白な人格者であった。明治5年12月7日生れ、昭和48年8月7日死去、100歳。



熊本は、昔から「火の国」と呼ばれてきました。大化の改新のあと、奈良時代に入って現出水校区内に国府がおかれ、ここを中心に聚落が形成されるようになりました。このうち、平安・鎌倉時代を経て室町時代になると、菊池一族である出田秀信が、はじめて熊本に千葉城を築き、数代後の城主鹿子木親員が、新しく茶臼山に城を築いて隈本城と呼びました。

豊臣時代に入って秀吉は全国を制覇するや小西行長と加藤清正に肥後を分領させたが、徳川の天下になると、加藤清正は肥後54万石の領主となり、慶長6年から茶臼山に築いていた新城を隈本城から熊本城に改めました。熊本市が町としての体制を整えたのは、このころからです。続いて細川忠利が肥後の領主となり、大政奉還までの二百有余年を細川家が政治を行ってきました。

明治10年西南の役で兵火を受け、市街地の大部分を灰燼に帰したが、直ちに復興し、明治22年には熊本市が誕生しました。大正から昭和にかけては隣接町村を合併しつつ熊本市の基礎を固め、九州における政治・経済・教育の中心地として発展を続けました。その後、昭和20年には大空襲で、終戦後の復興期に

あった28年には未曾有の大水害によって、市街地は壊滅的な被害を受けました。しかし全市民の不断の努力によって、困難を克服した熊本市はその後数次にわたる市域の拡大や近代的都市機能の集積を行い、近時では平成3年2月1日、飽託郡の北部町、河内町、飽田町、天明町と合併し、人口約63万人、面積約266平方キロメートルの熊本市が誕生しました。

この合併を機に、「熊本市基本構想」を策定し、これを基に「熊本市総合計画」を定め新たな一歩を踏み出しました。

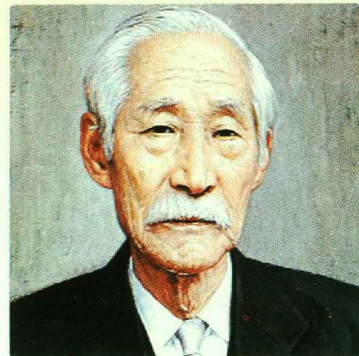
その後、中心部の辛島公園地下駐車場の完成や、熊本港の一部開港など都市基盤整備が着々と進むとともに、国際交流会館や環境総合センターのオープン、そして福井市との姉妹都市締結が行われました。

また、地球規模での平和、及び環境保全の一翼を担うことを目指して「平和都市宣言」や「環境保全都市宣言」がなされました。

さらに、平成8年4月には中核市として、人情味あふれる全ての市民が幸せを実感できるまちづくりの実現を目指した新熊本市がスタートしました。

名誉市民

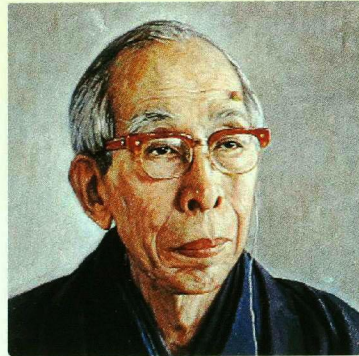
KUMAMOTO'S
HONORARY
CITIZENS



宇野哲人氏

(昭和44年10月1日表彰)

東京帝国大学での漢学・中国哲学の教授、東京大学名誉教授、実践女子大学々長、名誉教授等優れた業績は、郷土熊本の文運の興隆に、また、我国の漢学関係の学者者に多大の影響を与えた。明治8年11月15日生れ、昭和49年2月19日死去、98歳。



堅山南風(本名・熊次)氏

(昭和54年10月1日表彰)

横山大観画伯等に師事し、日本画に精進。その多くの作品の上に、肥後の郷土色のにじみ出た芸術の香りがよく生かされている。日本画壇の第一人者といわれ、また、郷土文化の進展に大きく貢献した。明治20年9月12日生れ、昭和55年12月30日死去、93歳。



後藤是山(本名・祐太郎)氏

(昭和54年10月1日表彰)

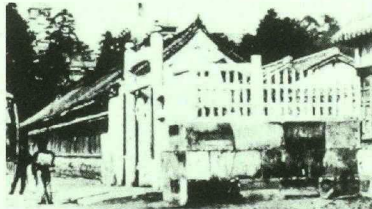
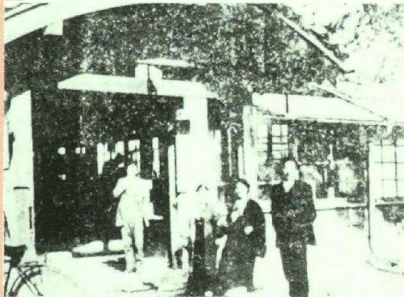
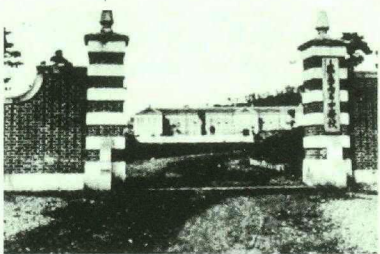
元九州日日新聞社筆。生来の文人墨客の性格と豊かな文筆で、数多くの郷土史を編さん監修、先人についての研究著述があり熊本の文化の啓蒙に尽した。「明星」同人、句誌「かはがらし」(後の東火)を主宰した。明治19年6月8日生れ、昭和61年6月4日死去、99歳。



中村汀女(本名・破魔)氏

(昭和54年10月1日表彰)

高浜虚子の門下生で、現代女流俳句の第一人者。常にふるさとを愛する心を底流にした「汀女俳句」は、氏の人柄と句にふれる人々に、郷土愛を喚起させ、郷土の文化振興に貢献。「ホトトギス」同人、「風花」を主宰した。明治33年4月11日生れ、昭和63年9月20日死去、88歳。

元号	年(西暦)	できごと	元号	年(西暦)	できごと	元号	年(西暦)	できごと	元号	年(西暦)	できごと
大化	2 (646)	砂取付近に肥後の国府および兵力4軍団が設置される	明	 鎮台花畑本営と熊本城、現在の市民会館前から撮影したもので大小天守閣が見える。明治5年頃。	 新南千反畑町の旧区役所跡に熊本市役所は開庁した。	明	24(1891) 7月	門司・熊本間の九州鉄道が開通	明	24(1891) 7月	門司・熊本間の九州鉄道が開通
文明	1 (1469)	菊池氏の一族、出田秀信千葉城を築く					11月	熊本電燈会社が開業し九州に初めて電燈がとれる			ラフカディオ・ヘルン(小泉八雲)五高に着任
明応	5 (1496)	鹿子木親員、古城に居城を移し、隈本城と称する					25(1892) 4月	塘林虎五郎が貧児寮(現大江学園)を設立			
慶長	6~12 (1601~1607)	加藤清正、現在地に熊本城を築き、河川の築堤、井戸の掘削など行う					27(1894) 7月	第6師団に動員令がくだる			
寛永	9 (1632)	細川忠利、肥後藩主となる						孤児・貧児の養育を目的とした天使園が設立される			
宝暦	4~6 (1754~1756)	藩校時習館、医学校再春館、蕃滋園(薬草園)などが創設される	治	 明治20年古城に新設された第五高等学校は、同22年立田山麓の黒髪に移転。	治	10月	元田永孚が成案)	8月	日清戦争がはじまる		
明	3 (1870)	古城に医学校が創設される				28(1895) 11月	イギリス人ハンナ・リデル女史が回春病院設立				
	4 (1871)	廃藩置県により熊本県が設置される				29(1896) 4月	夏目漱石が五高に着任、熊本を森の都と称賛				
		鎮西鎮台(九州および中国西部を管轄)が設置される				9月	私立医学校が設立される				
治	7 (1874)	熊本洋学校が創立される				31(1898) 1月	熊本専売支局が黒髪町に葉煙草専売所設置	10月	フランス人、ジョン・メリー・コール神父が癩救済の待労院を設立		
	10(1877)	九州最初の新聞、白川新聞が発行される					この年、市立避病院設立(後の白川病院)				
		西南の役、市街地の大半が兵火により焼失した					第23連隊練兵場が山崎町				



明治34年に市内の電話が開通した。交換手の白い上衣、紫袴は当時の女性の憧れだった。



軽便鉄道。
K.K.T.K.は熊本軽便鉄道株式会社の略。

大正10年、隣接11ヶ町村を合併し大熊本市が発足した。記念碑前で合併を祝う人々。



大正12年12月、市役所新庁舎完成。



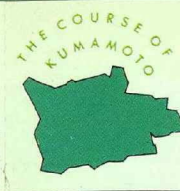
昭和2年12月から17台の市営バスが走り始めた。
(写真は昭和8年6月)



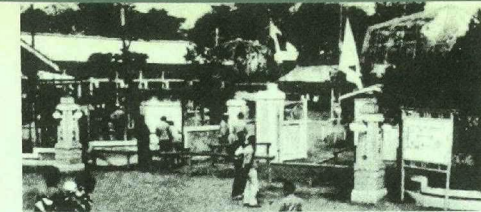
大正13年6月1日市電開通。救助艇がついている開通当時の13型電車。



大正末の市街地。合併による市域の拡大、三大事業の完成など、市の中心から周辺へと都市づくりが進む。



熊本市の あゆみ

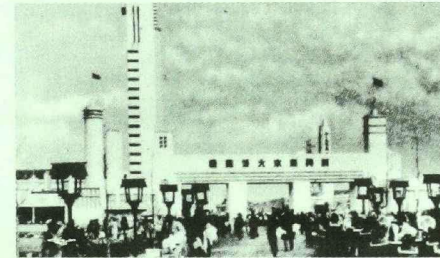


昭和4年7月に水前寺動物園が開園。



昭和10年頃の新しい市街記
念碑前。市営バスの発
着所。左に専売局と公
会堂、右に勸業館、電
話局が見える。

昭和5年10月 市公会堂新館が開館
昭和43年市民会館の出現に伴い取りかわされた。



昭和10年3月から5月にかけて開かれた
新興熊本大博覧会。



「昭和28年6月26日」大水害の惨
状。到る所泥の山。流失した家財
などで復旧に多くの人手、資材と
日数を要した。(下通り側)

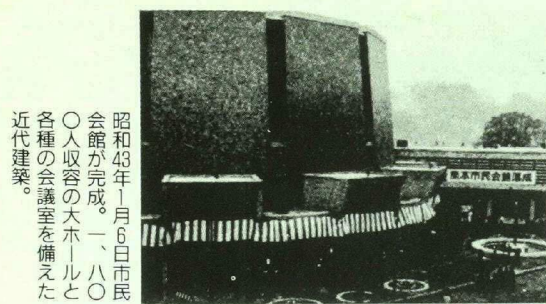


昭和35年10月、第
15回国民体育大会
は、全国から1万
3千人が集まり盛
大に開催された。

昭和35年9月、
83年ぶりに熊
本城天守閣が
再建された。

元号	年(西暦)	できごと	元号	年(西暦)	できごと	元号	年(西暦)	できごと	元号	年(西暦)	できごと
明	32(1889)	から渡鹿に移る 私立医学校が熊本医学専 門校となる 三角線開通	大	44(1911)	4月 市立実科高等女学校開校 市立工業徒弟学校開校 菊池軌道株式会社が上熊 本・広町間敷設	大	12(1923)	手取本町に市役所新庁舎 完成 12月 市営電車開通(車輦15台) 8月 開通に伴い鉄筋コンクリ ート大甲橋を架設	昭	5(1930)	熊本市歌を制定 3月 市営勸業館が新市街に開 館 4月 市公会堂新館が開館
	33(1900)	市内に大洪水、白川の橋 ほとんど流失し、子飼橋 付近溺死者多数		2(1913)	この年、熊本軌道が田崎 ・百貫港、田崎・高麗門 に開通		10月	歩兵第23連隊が渡鹿に移 転		6(1931)	白坪村を市に合併 6月 天皇陛下をお迎えし、熊 本平野等で陸軍特別大演 習を挙行
	34(1901)	熊本郵便局が電話業務を 開始		3(1914)	第1次世界大戦はじまる 7月 御大典記念奉祝共進会を 開催		11月	熊本市上水道完成 14(1925)		11月	失業救済の土木事業をは じめる
	35(1902)	明治天皇をお迎えし、陸 軍特別大演習を挙行 11月 行幸橋を架設		4(1915)	県公会堂が市に移管され る 5(1916)		4月	三大事業完成記念共進会 の剰余金で五高と下河原 にプールを造成		7(1932)	花園町に市営墓地を開設 3月 熊本高等小学校が再設開 校
	36(1903)	市区改正の事業と新市街 の事業完成 3月		6(1917)	熊本市工業従弟学校が熊 本商工学校となる 7(1918)		8月	長六橋を近代式鉄橋に架 け替える		8(1933)	熊本市に観光案内所を設 置
	37(1904)	日露戦争はじまり、第6 師団出征		7(1918)	このころより全国に米騒 動 10月		2(1927)	スペイン風邪が流行し、 全国で死者15万人 第1回国勢調査で、 市人口70,388人(市史) 戸数13,817戸		10(1935)	新興熊本大博覧会を開催 3月 健軍村を市に合併
	39(1906)	熊本高等工業学校設立 9月 夏目漱石が「草枕」を発 表		9(1920)	10月 隣接11ヶ町村を合併、人 口133,467人、戸数23,819 戸の大熊本市が発足		12月	第16回総選挙、最初の普 通選挙行われる 2月 NHK熊本放送局でラジ オ初放送		11(1936)	清水村を市に合併 4月 川尻町、日吉村、力合村 を合併
	40(1907)	九州鉄道が国有となる 7月 熊本軽便鉄道株式会社が 安巳橋・水前寺間に軽便 鉄道を敷設		10(1921)	6月 熊本市立実科高等女学校 が熊本市立高等女学校と なる 5月 熊本医学専門学校が医科 大学に		3(1928)	御大典記念事業として、 陸上競技場・野球場が完 成 4(1929)		14(1939)	この年、市営バスに木炭 車登場 4月 小学校が国民学校に改め られる
	41(1908)	人力車争議おこる 2月 鹿児島本線全線開通		11(1922)	4月 熊本ガス株式会社が開業 する		9月	水前寺動物園が開園 7月		15(1940)	太平洋戦争はじまる 12月 九州日日新聞と九州新聞
	42(1909)									16(1941)	
	43(1910)									17(1942)	

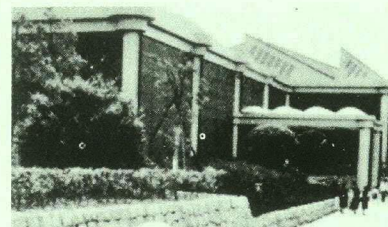
元号	年(西暦)	できごと	元号	年(西暦)	できごと	元号	年(西暦)	できごと	元号	年(西暦)	できごと
昭	4月	が統合され、熊本日新 聞が発足 18(1943)	昭	5月	天皇皇后両陛下ご来熊 この年、国立熊本大学発 足、県立熊本女子大学が 創設される 市立熊本保健所を上林町 に開設	昭	1月	併 7月 大水害で市の33%が浸水 し、金峰山周辺の山津波 で死者、行方不明多数を 出す	昭	40(1955)	4月 動」がはじまる 東部汚水処理場完成 市食肉センター開所 この年、市内全小学校に プール完成
	19(1944)	健軍に三菱重工業航空機 製作所が完成する 市電気局が交通局と改 称		25(1950)	NHK熊本テレビ開局 2月 中島村を市に合併 天皇皇后両陛下ご巡幸で 立田山、水前寺などを ご観覧		33(1958)	西部清掃事業所開所 市民相談室を設置 熊本保健所が九品寺1丁 目に新装発足		41(1966)	9月 市社会教育会館が開館 市育英奨学制度創設 熊本(水辺)動物園が完 成し、「熊本動物大博覧 会」を開催
	20(1945)	市立本荘産院が発足 7月・8月の空襲で市の 大半が焦土と化す 終戦の詔書放送		26(1951)	朝鮮戦争おこる 市競輪事業開設 熊本市立産院開設		4月	熊本空港開設 愛市憲章を制定 熊本城天守閣再建完成 第15回国民体育大会を開 催		42(1967)	3月 新熊本空港開設 市労働青少年ホーム開館 九州縦貫自動車道 (熊本・植木間)開通 熊本市基本構想きまる 市立ユースホステル開館 「森の都」を宣言し、森 の都作戦を展開
	21(1946)	市立市民病院発足 2月 日本国憲法公布(新憲法) この年、学校給食はじま る		27(1952)	市教育研究所を設置 市立博物館開館 住民登録制度を実施 田迎村、御幸村を市に合 併		28(1953)	国民年金制度発足 国民健康保険制度発足		43(1968)	1月 市立図書館発足 ラジオ熊本開局 市自治警察廃止(警察制 度改正)
	22(1947)	市長、県知事が初めて公 選で決まる 国民学校が小学校に、ま た新制中学が誕生		29(1954)	市立図書館発足 ラジオ熊本開局 市自治警察廃止(警察制 度改正)		7月	熊本空港開設 愛市憲章を制定 熊本城天守閣再建完成 第15回国民体育大会を開 催		44(1969)	4月 市立ユースホステル開館 「森の都」を宣言し、森 の都作戦を展開
	23(1948)	市消防本部設置 市立母子寮を開設 市自治警察本部設置 (新警察制度発足)		30(1955)	秋津村を市に合併 市電30年記念「交通観光 博覧会」を開催		10月	熊本空港開設 愛市憲章を制定 熊本城天守閣再建完成 第15回国民体育大会を開 催		45(1970)	11月 新熊本空港開設 市労働青少年ホーム開館 九州縦貫自動車道 (熊本・植木間)開通 熊本市基本構想きまる 市立ユースホステル開館 「森の都」を宣言し、森 の都作戦を展開
	24(1949)	新制高等学校発足する 「火の国まつり」はじま る 市立実務員養成所(後の 実務商業)を開設		31(1956)	松尾村を市に合併 託麻村の一部を市に合併 小島町、龍田村を市に合		34(1959)	国民年金制度発足 国民健康保険制度発足		46(1971)	4月 新熊本空港開設 市労働青少年ホーム開館 九州縦貫自動車道 (熊本・植木間)開通 熊本市基本構想きまる 市立ユースホステル開館 「森の都」を宣言し、森 の都作戦を展開
	25(1950)	市立本荘産院が発足 7月・8月の空襲で市の 大半が焦土と化す 終戦の詔書放送		27(1952)	市教育研究所を設置 市立博物館開館 住民登録制度を実施 田迎村、御幸村を市に合 併		28(1953)	国民年金制度発足 国民健康保険制度発足		47(1972)	10月 秋津下水処理場が完成 戸島町に市斎場開設
	26(1951)	朝鮮戦争おこる 市競輪事業開設 熊本市立産院開設		29(1954)	市立図書館発足 ラジオ熊本開局 市自治警察廃止(警察制 度改正)		30(1955)	熊本空港開設 愛市憲章を制定 熊本城天守閣再建完成 第15回国民体育大会を開 催		48(1973)	1月
	27(1952)	市教育研究所を設置 市立博物館開館 住民登録制度を実施 田迎村、御幸村を市に合 併		31(1956)	松尾村を市に合併 託麻村の一部を市に合併 小島町、龍田村を市に合		32(1957)	熊本空港開設 愛市憲章を制定 熊本城天守閣再建完成 第15回国民体育大会を開 催		49(1974)	



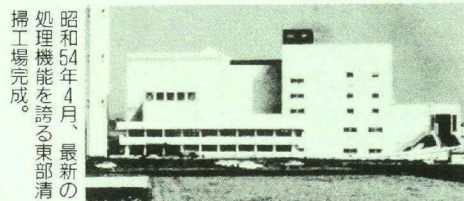
昭和43年1月6日市民会館が完成。一、八〇〇人収容の大ホールと各種の会議室を備えた近代建築。



昭和46年6月、熊本・植木間の高速自動車道が開通した。



郷土熊本に根ざした西日本一を誇る熊本博物館が昭和53年4月1日に開館した。



昭和54年4月、最新の処理機能を誇る東部清掃工場完成。



昭和56年11月新市庁舎完成。



昭和53年8月、熊本の新しい夏まつり、市民総参加の「火の国まつり」が始まる。



産業文化会館



昭和63年4月長堀通り開通

元号	年(西暦)	できごと	元号	年(西暦)	できごと	元号	年(西暦)	できごと	元号	年(西暦)	できごと
昭和	48(1973)	学校給食東共同調理場が完成	昭和	54(1979)4月	つり」が誕生 東部清掃工場完成 新熊本市民病院開設	昭和	8月	西ドイツ・ハイデルベルク市へ友好訪問団を派遣	昭和	3月	電子計算システム始動
	49(1974)	勤労婦人センターを本山町に開設		7月	熊本市保健センター開設(現東部保健センター)が開所		10月	熊本市の翼、友好都市桂林市を訪問		4月	西部清掃工場完成・東部清掃事業所開所
	50(1975)	西部、南部市民センターが完成		10月	龍田市民センター完成		11月	新市庁舎建設完成		7月	総合体育館・青年会館開館
	51(1976)	森の都のシンボルとして市の木「イチヨウ」、市の花「肥後ツバキ」がきまる		55(1980)	「健康都市」を宣言		6月	幸田市民センター完成		8月	第4回全国都市緑化くまもとフェア開催
	52(1977)	身体障害者福祉モデル都市に指定される		6月	中国・桂林市と友好都市締結		7月	北部保健センター開設		10月	市議会で飽託郡四町からの合併請願採択
平成	53(1978)	南千反畑町に中央老人福祉センターが完成	平成	56(1981)	市制90周年記念式典を行う	平成	8月	小楠記念館完成	平成	3月	「熊本百彩」開幕
	54(1979)	市立金峰山少年自然の家が開所		12月	市制90周年記念式典を行う		10月	青少年野外活動センター完成		4月	流通情報会館完成
	55(1980)	「地下水保全都市」を宣言		55(1980)	身障者福祉センター希望荘開設		12月	西ドイツ・ハイデルベルク市、管楽五重奏団来熊		5月	「水源かん養林記念植樹祭」
	56(1981)	西南の役百周年記念式典を行う		6月	養護老人ホーム明生園開園		11月	西ドイツ・ハイデルベルク市、管楽五重奏団来熊		6月	川尻下水処理場運転開始
	57(1982)	熊本市人口が50万人を突破		8月	水害で約16,900人の市民の罹災者を出す		12月	図書館完成		7月	「ふれあいの森林」内に森林学習館がオープン
令和	58(1983)	熊本市人口が50万人を突破	令和	58(1983)	身障者福祉センター希望荘開設	令和	4月	龍田市民センター完成	令和	8月	第4回全国都市緑化くまもとフェア開催
	59(1984)	熊本市人口が50万人を突破		6月	水害で約16,900人の市民の罹災者を出す		5月	市立金峰山少年自然の家が開所		9月	市議会で飽託郡四町からの合併請願採択
	60(1985)	熊本市人口が50万人を突破		12月	熊本市総合計画基本構想きまる		7月	扇田埋立処分場供用開始		10月	「熊本百彩」開幕
	61(1986)	熊本市人口が50万人を突破		56(1981)	熊本市保健衛生研究所開設		8月	清水市民センター完成		12月	流通情報会館完成
	62(1987)	熊本市人口が50万人を突破		1月	熊本市城大手橋門復元完成		10月	熊本市の人口が55万人を突破		1月	「熊本百彩」開幕
令和	63(1988)	熊本市人口が50万人を突破	令和	60(1985)	産業文化会館が開館	令和	6月	母子福祉センター完成	令和	3月	政治倫理条例制定
	64(1989)	熊本市人口が50万人を突破		3月	託麻市民センター完成		8月	秋津市民センター完成		4月	「総合婦人会館・カルチャーセンター」がオープン
	65(1990)	熊本市人口が50万人を突破		7月	熊本市総合計画基本計画きまる		1月	熊本市自転車駐車場完成		5月	武蔵塚公園が新たに開園
	66(1991)	熊本市人口が50万人を突破		5月	熊本市人口が50万人を突破		4月	熊本市人口が50万人を突破		6月	川尻下水処理場汚泥焼却場完成
	67(1992)	熊本市人口が50万人を突破		8月	熊本市人口が50万人を突破		1月	熊本市人口が50万人を突破		7月	「熊本百彩」開幕



平成元年4月流通情報会館完成



平成元年10月1日市制100周年記念式典



平成2年4月、総合婦人会館・カルチャーセンターオープン。



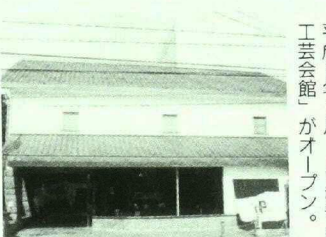
平成2年6月、水資源国際会議



平成2年10月「水の科学館」が開館。



熊本市・飽託郡四町が合併



平成3年7月、「くまもと工芸会館」がオープン。



平成3年9月、台風19号の被害



平成4年11月、長寿の里デイサービスセンター完成

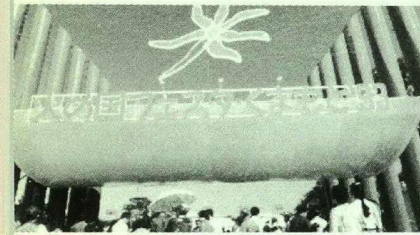


平成5年3月、大名屋敷・旧細川刑部邸完成

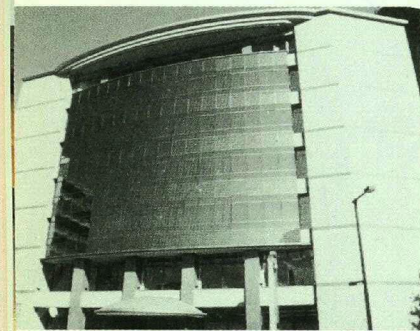


平成5年9月、大名屋敷・旧細川刑部邸完成

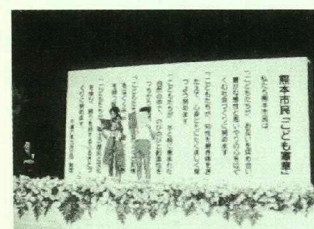
元号	年(西暦)	できごと	元号	年(西暦)	できごと	元号	年(西暦)	できごと	元号	年(西暦)	できごと
昭和	63(1988)		平	6月	中国・桂林市、アメリカ・サンアントニオ市、ドイツ・ハイデルベルグ市を迎え「水資源国際会議」を開催	平	5月	好都市締結の調印式「上高橋団地」が完成	平	10月	透明ごみ袋によるごみ出し制度スタート
	7月	大江市民センター完成		7月	平成駅の開業			ハイデルベルク市と「医療基金」協定に調印			
	8月	江津湖まつり（マイソング発表会）		8月	熊本駅前北地区第一種市街地再開発事業完了			サンアントニオ市とエイズ対策で共同宣言			
	10月	くまもと緑化祭・地場産業振興フェア開催			市内4ヵ所地域コミュニティセンターがオープン			ゆうあいピック熊本大会開催			
元(1989)		市議会で飽託郡四町からの合併請願採択	3(1991)2月	9月	市民長寿社会憲章制定	10月	9月	くまもと環境フェア'92を開催	6(1994)2月	老人保健福祉計画を策定	
	3月	「熊本百彩」開幕		10月	平成学園オープン			天明総合支所庁舎が完成			
	4月	流通情報会館完成		3月	熊本市と飽託郡四市が合併			東部環境工場が完成			
		「水源かん養林記念植樹祭」		4月	熊本市基本構想策定		11月	「長寿の里デイサービスセンター」が完成		5月	日吉・桜木中学校が開校
平	5月	サンアントニオ市に「熊本園」完成	5月	「五福地域開発センター」が落成	5(1993)2月	南部第一土地区画整理事業完了	6(1994)9月	高速消防艇「金峰」が任務に就く			
	8月	金糸猴一般公開	6月	本荘犬洲線立体交差開通				交通・水道事業70周年記念式典			
		南部保健センター開設		「南部総合スポーツセンター」がオープン				国際交流会館がオープン			
	9月	宇土橋・数寄屋丸二階御広間完成		「天明コミュニティセンター」がオープン		3月		熊本港が一部開港		「市民こども憲章」を制定	
成		動物資料館完成	7月	「くまもと工芸会館」がオープン	成	8月	保田窪放水路完成	7(1995)	ハンドボール世界大会の熊本開催が決定		
		熊本城フェスティバル	9月	新熊本市史発刊		9月	熊本城天守閣がリフレッシュ		11月	福井市と姉妹都市締結	
	10月	歴史都市サミット開催	10月	「大名屋敷・旧細川刑部邸」が完成			兵庫県南部地震第1次災害救援隊派遣				
	2(1990)	政治倫理条例制定	1月	熊本市総合計画基本計画策定			駐車場案内誘導システムがスタート		1月	福井市での姉妹都市覚書調印式	
成	3月	「総合婦人会館・カルチャーセンター」がオープン	3月	高規格救急車が消防局に配備	10月	「火の国フェスタ・くまもと'93」が開幕	4月	子ども文化会館オープン			
	4月	武蔵塚公園が新たに開園	4月	熊本城周遊バスがスタート				いじめ110番業務開始			
	5月	川尻下水処理場汚泥焼却場完成	5月	ハイデルベルク市との友				市民交流サロンオープン			



平成5年10月、「火の国フェスタ・くまもと'93」開幕



平成6年9月、国際交流会館オープン



平成6年9月、「市民子ども憲章」を制定



平成7年1月、兵庫県南部地震災害救援派遣団出発式



平成7年2月、福井市での姉妹都市覚書調印式



平成7年3月、子ども文化会館オープン



平成7年4月、市民交流サロンオープン



平成7年6月、環境総合センターオープン



平成9年5月、新消防司令官制システム運用開始



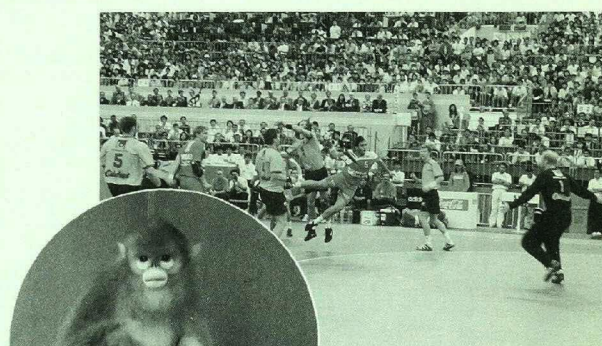
平成9年5月、リサイクル情報プラザ「エコ」完成



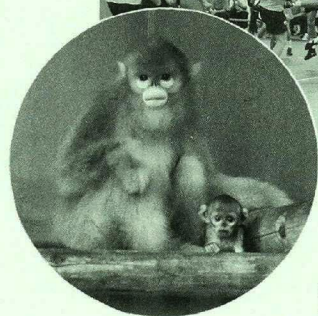
平成8年4月、中核市移行記念式典



平成8年5月、第1回くまもとお城まつり開催



平成9年5月、男子世界ハンドボール選手権大会熊本開催



平成9年5月、金絲猴の赤ちゃん誕生



平成9年7月、JR鹿児島本線等鉄道高架化及び熊本駅周辺地域等の整備に関する熊本県、熊本市の協定締結



平成9年8月、超低床電車運行開始
ノンステップバス運行開始

元号	年(西暦)	できごと	元号	年(西暦)	できごと	元号	年(西暦)	できごと	元号	年(西暦)	できごと
平	7(1995)4月	武蔵塚駅前自転車駐車場オープン	平	9月	に関する協定調印式	平	5月	一」設置 高齢者保健福祉相談コーナー設置 1997年男子世界ハンドボール選手権大会・熊本開催	平	7月	会答申 断続的に降り続いた大雨による水害発生 JR鹿児島本線等鉄道高架化及び熊本駅周辺地域等の整備に関する熊本県、熊本市の協定締結
	5月	日吉東小学校完成		10月	熊本市行政改革大綱策定						
	6月	環境総合センターオープン			さくらカード(優待証交付事業)スタート						
	9月	環境保全都市を宣言			くまもとお城まつり開幕						
	11月	高齢者世話付住宅出水団地完成			中核市サミット(堺市)						
成	12月	中核市政令公布	成	12月	中核市災害時相互応援協定締結	成	6月	九州新幹線建設促進総決起大会(東京)	成	8月	超低床電車運行開始 ノンステップバス運行開始
	8(1996)	第1回熊本県消防広域応援合同訓練			中核市移行					9月	熊本市美術館検討委員会設置
	1月	後藤山記念館落成		9(1997)	ホームページ開設					10月	第2回くまもとお城まつり開催
	4月	耐震性貯水槽(楠中央公園)設置		1月	パークアンドライドシステム試行					11月	フードパル熊本オープン
	5月	情報公開検討委員会設置		2月	不登校の子供のための適応指導教室「フレンドリ						
	6月	尼崎市と災害時相互応援		4月			7月	熊本市情報公開検討委員			
	8月										

市民の くらし 平成9年



世帯人口 1世帯当り2.6人



人口密度 1km²に2,466人



出生 1日につき18.7人



死亡 1日につき11.3人



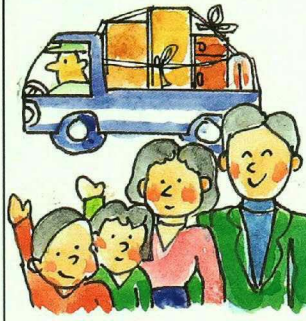
結婚 1日につき12.0組



離婚 1日につき3.6組



転入 1日につき92.2人



転出 1日につき93.5人



酒 1人1日0.16リットル



乗用自動車(軽自動車を含む)
1世帯に1.0台



犯罪 1日に28.2件



交通事故 1日に13.0件



市職員 市民96.8人に1人



消防職員 市民1,039人に1人



火災 1日に0.64件



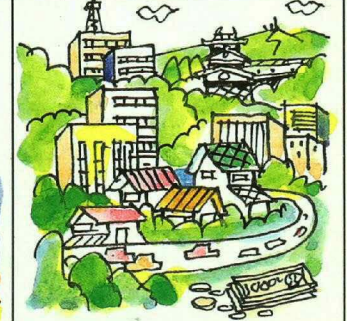
水道使用料
1日1人あたり263円



ごみ収集量 1日に896トン

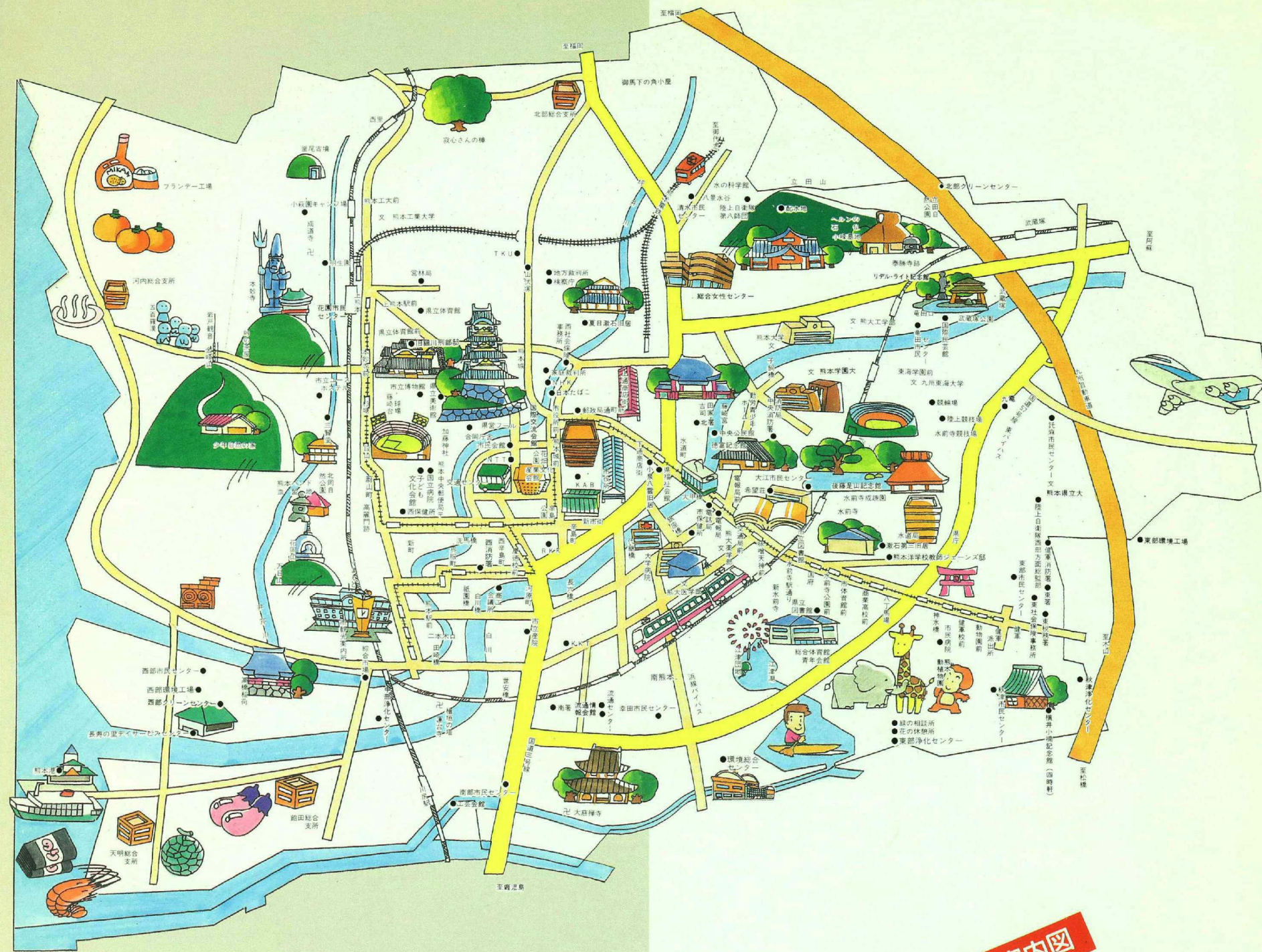


市税 市民1人当り129,423円



市の予算
市民1人当り328,420円

(人口関係は平成9年分、予算は平成9年度当初予算額、その他は平成8年又は8年度分の数値である)



KUMAMOTO CITY GUIDE MAP

熊本市案内図

MATERIALS FOR STATISTICS 資料編

資料編目次

1. 気象概況82
2. 熊本市の校区面積
3. 推計人口・人口動態
4. 年齢別（5歳階級）男女別人口
5. 熊本都市圏人口83
6. 産業大分類別事業所数・従業者数
7. 農家数・農業従業者数・耕地面積の推移
8. 工業の主要指標
9. 商業の主要指標
10. 熊本市消費者物価指数84
11. 熊本市全世帯1か月間の平均支出
12. 幼稚園・小学校・中学校・高等学校・大学・専修・各種学校の状況
13. 道路状況
14. 建築物用途別受付件数
15. 市内公園数及び面積85
16. 下水道状況
17. 医療施設
18. ごみ・し尿収集処理状況
19. 市民病院利用状況
20. 市立産院利用状況86
21. 熊本市の主要死因別死亡者数
22. 生活保護状況
23. 国民年金
24. 国民健康保険給付状況
25. 老人福祉状況87
26. 保育所の概要
27. J R市内駅乗客数状況
28. 市内自動車登録台数
29. 市営電車・市営バス利用状況
30. タクシー及びハイヤーの登録台数88
31. 電話の概況
32. 郵便物取扱数
33. 電灯・電力需要状況
34. ガス需要状況
35. 上水道給水状況89
36. 交通事故の状況
37. 刑法犯罪認知件数
38. 火災の原因別件数
39. 救急活動状況
- 市内の主な官公署90